

受け継がれし熟練の技！

IN 志那地区

淡水真珠の

生産 & オペの様子公開します！

母貝であるイケチョウガイに細胞や核を移植する「オペ」は淡水真珠生産に欠かせない技術。生産者によって養殖オペに使う道具、施術方法、核の形などは様々で、どういった形のどんな色の真珠を作りたいか計算しながらオペを施します。貝によって個性も成長具合も異なる「自然相手」の養殖のため、狙い通りに真珠が出来た時の感動はひとしお。現在もお志那地区で受け継がれているオペの技術を一部公開します。

まずは、オペ時に母貝に埋め込む細胞を他の貝から取り出します

step.1 細胞採り



外套膜を切り取る

細胞台に貝を置き、固定したらヘラで貝柱を切り、貝を開く。ピンセットでつまみながら、スバベラで外套膜を見から外していき、カミソリで外套膜を切り、細胞バサミで外套膜の両端をカットする。



オペに備えて準備する

細胞をひっくり返し、(細胞を母貝に挿入する時に、細胞のある繊維部分が母貝に触れるようにするため) カミソリで3mm程度にカットしておく。細胞が乾いてしまわないよう、都度筆で細胞を濡らしておく。



オペ基本セット



細胞を整える

細胞板に外套膜を置き、ピンセットで両端を押さえて、カミソリで幅を3mm程度に揃える。先の曲がったハサミで外套膜の皮を剥ぎ、細胞の繊維が見える状態にし、厚みを2mm程度に揃える。ここで余分な肉片がついていると化膿玉(色や形が良くない玉)の原因となる。

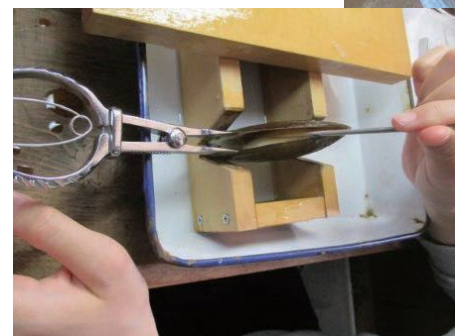


化膿玉
色や形が良くないため
商品とならない。

使用する道具



step.2 オペ



下準備

桶に母貝を入れ、温度を上げた水に浸し、口を開けさせておく。母貝に開口器を挿し込み、1~2cm口を開かせた状態をキープさせてから細胞台に乗せ、スバベラで母貝の肉を手前に寄せ、外套膜を見やすくする。



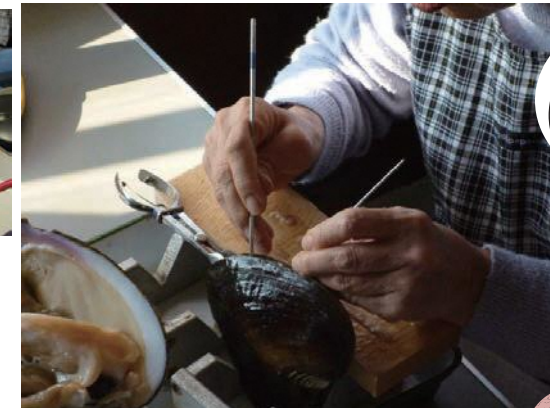
Check! ポケットが浅ければ、貝が呼吸した時に細胞が飛び出してしまうし、逆に深すぎればポケットの穴が貫通して、玉がキレイにできなかったり、最悪貝が死んでしまうんだって。熟練の技が必要な部分です。



5

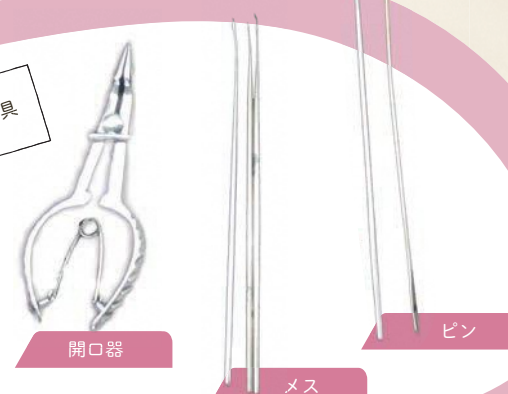
ポケット作り

メスで母貝の外套膜に袋状の穴をあけ、ポケットを作る。



細胞を入れる箇所によって、サイズや色を狙ってつくるプロの技！

使用する道具



step.4 収穫



ゆっくりじっくり時間をかけて良い真珠を育みます

玉出し

ヘラで貝柱を切り、真珠を取り出す。熟練の職人は母貝を傷つけないよう開口器で開けた少しの隙間から真珠を取り出し、再び真珠を作ることも出来るのだとか。真珠秤を使って「匁(もんめ)」で計量し、取引をします。

8

玉出した後に、真珠を塩もみすることで真珠に照り(輝き)を与えます。



使用する道具

Good

step.3 養殖

内湖での養殖

オペが終了した貝を養殖棚につるし、内湖で3年~養殖する。貝が死んでしまうと、その貝から周囲に菌が増殖し、真珠が出来なくなってしまうため、都度貝のチェックをする。開口器を使い、母貝の中で真珠の出来具合を確認する。



step.5 加工・完成

ネックレスやイヤリングなどのアクセサリに加工され、私たちの手元に届きます。真珠層が厚いため、時間が経つ程に味わい深い輝きになり、親から子へと時を超えて愛されるアクセサリとなります。